

2019年11月5日 第298号

憲法共同センターNEWS

戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター
〒113-8462 文京区湯島 2-4-4 全労連会館 03-5842-5611 (FAX 5842-5620)
<http://www.kyodo-center.jp> mail: move@zenroren.gr.jp

11・3 憲法集会に1万人

憲法審査会開くな! 改憲発議絶対止めよう! 安倍政権を一刻も早く退陣させよう!

総がかり行動実行委員会、安倍9条改憲NO!全国市民アクション、3・1朝鮮独立運動100周年キャンペーンは11月3日、「安倍改憲発議阻止! 辺野古新基地建設やめろ! 東北アジアに平和と友好! 11・3 憲法集会 in 国会正門前」を行い、1万人が参加しました。憲法公布から73年を迎え、安倍政権が改憲発議に向け草の根からも運動をしかけてきている中、改憲を阻止するため、地域・職場から3000万人署名で対話をさらに広げ、市民と立憲野党が連帯し、たたかっていくことを確認しあう集会となりました。韓国の市民団体から6人が参加し、2人が連帯あいさつ。「安倍政権NO」「改憲NO!」で、日韓市民の連帯を深めていくことも確認しました。社民党・福島みずほ参議院議員、日本共産党・穀田恵二衆議院議員、立憲民主党・逢坂誠二衆議院議員があいさつしました。



主催者あいさつを総がかり行動実行委員会・小田川義和共同代表(全労連議長)が行いました。「私たちのたたかいで自民党改憲4項目の提示を許さなかった。安倍首相は新時代の発想で憲法を議論すると言うが、憲法を無視しているという誤りこそ正すべき」と指摘。沖縄の問題について、「パラシュート降下訓練は沖縄県の伊江島で行うことで合意されていたが嘉手納基地で強行された。日米地位協定の見直しが必要」と強調。大学入試への民間英語共通試験導入について高校生なども反対で声を上げたことを紹介し、「先延ばしでなく撤回を。声を上げれば政治は変えられる。安倍改憲を阻止しよう」と呼びかけました。

韓国の市民団体から2人が発言。安倍糾弾市民行動・共同代表、韓国進歩連帯・常任共同代表のパク・ソグンさんは「韓国大法院の判決は、反人権的なものに対する時効はないということに沿ったもの。安倍政権はヘイト・嫌韓をあおり、平和憲法を壊し、軍事大国化しようとしている。平和憲法を守る、東北アジアの平和のため日韓市民が連帯し、たたかおう」と呼びかけました。

東アジア平和会議・イ・ブヨンさんは「平和憲法は戦争を防ぐ人類共同の資産。憲法が改悪されれば、東アジア、世界の危機になるのは火を見るより明らか。朝鮮半島の非核化、平和憲法を守ることが世界の平和につながる。東アジアの平和のために敵対的な安倍政権の政策を転換させないといけない」と指摘しました。

さまざまな分野から6人が連帯のスピーチ。「毎月11日、全国26カ所で差別に苦しむ声に寄り添い、フラワーデモなどの行動を行っている。こんな社会はいやだと声を上げ、市民が連帯している」(作家・北原みのりさん)、「大法院判決から1年。被害者の人権は回復されていない。安倍首相は国際法違反と言いメディアはその主張を受け売りで報道する。本当に正しいか検証する必要がある」(3・1朝鮮独立運動100周年キャンペーン・矢野秀喜さん)、「辺野古や基地問題など沖

縄県がアメリカ政府に対し申し入れをしているが、これは日本政府がやるべき仕事だ。アメリカでは、基地の滑走路は住宅地から 50 キロ離れている。同様の基準だと横田も厚木も飛べないことになる。いのち・人権の問題だ」(辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議事務局長・山本隆司さん)、「安保法制の息の根を止めよう。裁判の傍聴に来て、『安保法制を否定している人がこんなにいる』ということを示そう。署名にご協力を」(安保法制違憲訴訟の会・杉浦ひとみ弁護士)、「6兆円近い軍事費を災害や教育支援に使うべき。正しいことが通らない政治は絶対に許さない」(安全保障関連法に反対する学者の会・千葉真さん)、「日本を守りたいと自衛隊に入ったのに、中東に派遣する、いのちの危険にさらすということは、国家的求人詐欺ではないか。憲法を活用し労働者の権利を拡充させよう。安倍政権を一刻も早く辞めさせよう」(日本労働弁護士・今泉義竜弁護士)と発言しました。

総がかり行動実行委員会・高田健共同代表が行動提起。「憲法審査会の開会が強行されても、改憲案の提出は許さない、改憲のための議論は許さないと、市民と立憲野党が団結してたたかおう。11月の19日行動への参加、署名をさらに広げ、9条改憲を許さない、安倍政権打倒のたたかいを、全国の草の根から取り組んでいこう」と呼びかけました。

●埼玉 決戦の国会論戦スタート オール埼玉、9回目の1万人総行動で反撃

2014年秋に結成されて5年間、政治情勢の重要な節目ごとに8回の1万人規模の大集会を成功させてきたオール埼玉総行動実行委員会は、9条改憲にとってこれまで最大の重要局面とも言える今臨時国会の山場に9回目の大規模行動を計画しました。

オール埼玉のこの間の活動結果は、先の参院選埼玉選挙区や知事選の結果に大きく影響を与えたと言われています。この結果、続く岩手県知事選でも野党統一候補の勝利、そして11月17日投票の高知県知事選での野党統一と繋がっています。

こうした中で開催される「11・26 オール埼玉総行動」は、国政にも、全国の憲法運動にも大きな影響を与えることになり、必ず成功させる必要があります。そこで、オール埼玉は「自ら風を起こして安倍9条改憲を阻止しよう」と、小出実行委員長を中心に、主要な労働組合、市民団体、弁護士会、政党などに協力要請の行動に取り組みました。訪問した先々で、憲法をめぐる情勢認識が一致し、各団体とも積極的に参加することを表明してくれました。



●東京 日野 憲法署名目標2万を遂に達成 10/27 目標達成記念のつどいを70人で開催



日野市で9条改憲ストップ！憲法を生かす3000万人署名に取り組んできた「市民アクションひの」は、10月27日、2万筆の目標を達成したことを記念するつどいを開催し、70人が参加しました。この日までに集めた署名は、2万331筆となりました。

この2年間、日野では、知人への署名、街頭での呼びかけ、手紙でお願いをすすめ、全戸訪問にも挑戦し、多くの市民と対話を重ねてきました。また、3000万人署名運動は憲法を学び実践する運動であることを重視して、独自に3種類7000枚の学習資料を発行して学習を重ね、6種類27万3千枚ものチラシで広く市民に呼びかけてきました。

目標達成記念のつどいでは、地域の歌声サークルのオープニングコンサートのあと、総がかり行動実行委員会運営委員の菱山南帆子さんが「市民の連帯で政治を変えよう～私がコールを続ける思い」と題して、腐敗と強権の安倍政権に負けない力強い話をしてくれ、笑い拍手に包まれました。

また、「署名と対話の運動は楽しくなくては続かない」と八王子での様々な街頭行動の工夫を紹介してくれました。

続けて、映像で2年間の運動を報告、雨の日も寒い正月も高幡不動駅前でも日曜日の署名行動を110回も続け市民との対話を重ねてきた地域の会、27回の全戸訪問で4100軒を訪問してきた地域の会に感謝状を贈呈しました。